



サーフボード制作で特許取得

キリフレックス
kiriflex 考案者

やまもと ともひろ
山元 智博 さん (42)

もつといいサーフボードを作って 東京オリンピックピックで 世界中のサーファーに使ってほしい

機能性の高さが認められ、国内で6人のプロサーファーと契約を結ぶほどのサーフボードを制作する人がいる。

山元智博さん、42歳。

サーフボードのストリッパ（中心部に使われる補強材）に桐材を使う「kiriflex」を発明し、特許を取得した。

サーフボードの制作を始めたのは10年前。祖父が経営する緒方製材所で働く傍ら、自身もサーフィンに打ち込んでいた。

「買ったボードの左右のバランスがずれているのに気づき、自分で作ったら

もつといいものができるのではと思った」。

手探りの状態で始めたサーフボード制作は、どの木材が適しているかを見極めることから始まった。その中で軽く、しなりがあり、吸湿が少ない桐材が一番向いていると考えた。

「二からつくるのは簡単ではなかった。作っては自分で使い、少しずつ試行錯誤をして改良していった」。4年間もの地道な研究が実り、スピードが出て、高反発で、耐久力も高いサーフボードが完成した。

「自信が持てるものが出てきたので多くの人に使って

もらいたいと思った」。3年前、日本最大のサーフボードの展示会「イースタイル」に参加。そこで、オーストラリアのサーフボードメーカー「CORE F.O.A.M」に認められ提携することになった。

「今は、もつといいものを作りたい思いでいっぱい。サーフィンが東京オリンピックから新種目として認められた。その大舞台で自分が作ったサーフボードが使われることが大きな夢です」。

小林から世界に。その技術はさらに磨きがかかっていく。



- ① 1本の丸太を7ヶ月かけて形にしていく。
- ② オーストラリアやハワイに行くなど kiriflex のPRに力を入れている。
- ③ 市の植樹林に参加するなど、ボードの材料となる木材を守る活動にも力を入れている。

小林 小入
こばやしびと
Vol.68